



高校生夢トーク
私の考える栃木の未来

フィールドワークで現状を知る

市内に9つの高校を擁し、およそ六千人もの高校生が日々活動する「高校生のみち」としての側面を持つ栃木市。高校生の皆さんの視点から見ると、栃木市はどうあるべきなのか？今回は、市内全ての高校から、26名の生徒の皆さんが参加し、栃木市のまちづくりについて考えました。

夢トーク本番の市長との意見交換会に臨むにあたり、まず2日間の事前学習を行いました。あらかじめ3つのグループに分かれた高校生の皆さんは、栃木市に関する資料を見たり、実際にまちなかに出て、駅前のシビックコア地区整備計画の予定地や、古い建物をリノベーションした店舗など、フィールドワークによりまちづくりの現場を実際に目にし、市の現状について学習しました。

そして、各グループが感じた「栃木市の課題」をもとに、市のまちづくりに対する提言「アクションプラン」をまとめ、夢トークに臨みました。

ユニークな演出が光った発表

12月15日に市役所本庁舎にて行われた夢トーク当日。前半は、大川市長や来場者の皆さんの前で、各グループの「アクションプラン」のプレゼンテーションが行われました。

チームKAピば楽「栃ものがたり」

発表全編を寸劇として行ったこのチーム。栃木駅前に整備予定のシビックセンターを軸に、高校生が興味を持つ雑貨や、地元の食材を生かした駅弁の販売などによる賑わいの創出を提案しました。

また、訪問者がくつろげる足湯に加え、カピバラのような動物とのふれあえる場所など、心温まるようなプランも提案されました。

チーム下町タケット

「#若者が求める栃木市」

高校生自らの手によるプランを提案したのがこのチーム。最近のタピオカの再ブームに目を付け、タピオカ入りのドリンクや、栃木市の伝統工芸品などを提供・販売するアンテナショップを、高校生の手により運営するプランを提案しました。アンテナショップを提案する寸劇では、男子生徒が女子生徒を、女子生徒が男子生徒を演じる離れ業も。

チームイッチーと愉快的仲間たち

【CMON BABY YOUNG MAN】

プレゼンテーションの途中で、市長に本物のコーヒーとお菓子を提供するユニークな演出を行ったこのチーム。駅前に整備予定のシビックセンターに、市内のカフェが連携して運営するカフェスペースや、市内の伝統工芸の体験スペースの設置のほか、各校の音楽部や演劇部、ダンス部など、高校生の発表のためのイベントステージとして活用する提案がなされました。

フリートークでは様々な発言が

夢トーク後半は「市長と高校生とのぶっちゃけトーク」。発表の緊張感から解放された高校生の皆さんから、市長と、急遽飛び入り参加した教育長に質問が投げかけられました。

「市長の仕事は実際にはどのような仕事なのか？」「外国人に向けた通知書などの多言語語化を」「農業ツアーを行って定住につなげたい」「外国人観光客を増やすにはどうすればいいか、市長の考えは？」「空き家を活用して高齢者や親子とがふれあえる場を作りたい」といった真摯な提案や質問から、「高校の中に、夜遅く勉強する生徒のために食べ物の自動販売機を入れたい」「市長が女子高生だったころは、市内の男子校のことをどう思っていましたか？」といった大胆な質問まで、市長と高校生との距離がぐっと縮まったひと時となりました。



1 栃木駅前のシビックセンター予定地をフィールドワーク / 2 ファシリテーターに意見を聞きながらプランを議論しました / 3 やややかな雰囲気で行われたフリートーク / 4 駅弁の提案をする「チーム KAピば楽」 / 5 活気あふれる発表を行ったチーム「下町タケット」 / 6 発表のタイトルを振り付けを入れて紹介する「チーム イッチーと愉快的仲間たち」 / 7 前掛け姿でカフェの店員になりきって市長にコーヒーを提供する演出 / 8 各チームの発表内容に答える市長